

38-3 場の情報共有システムを用いたワークショップの運用技術に関する研究

環境システム工学科	教授	両角光男
環境システム工学科	助手	大西康伸
大学院自然科学研究科	前期課程	出口裕二
大学院自然科学研究科	前期課程	森貴弘

まちづくりワークショップ（WS）は、市民が環境デザインに参加する重要な機会として広く知られている。場に関する特徴を手軽に記録できるデジタルカメラは、WSにとってたいへん便利な道具である。しかし、撮影した画像データが増えるに従い、通常短時間で実施されるWSにおいてそれらをどのように扱うかが問題となる。WS参加者は、膨大な画像を発表用にまとめる際に手間が必要だけでなく、参加者間でそれらを円滑に共有することが困難である。

場の情報を記録する道具としてデジタルカメラを利用することを前提に、筆者らはまちづくりWSを支援するための、web-GIS技術を活用したプロトタイプシステムを開発した。システムは、画像データや文章などの場に関する情報を撮影地点と結びつけて地図上に登録する Mapping Unit と、地図上に登録された画像データをプレゼンテーションの際に表示する Image Data Sharing Unit の2つから構成される（図1）。次に、システムを適用したWSを運営するための様々な技術を構築した。都市デザインWSの運営手順を考察し、それに適応した会場の情報環境および会場のレイアウトを構築した。さらに、システムを用いたWSを円滑に進めるために、特別なサポート組織を構成した。



図1 プロトタイプシステム
(上: Mapping Unit、下: Image Sharing Unit)



図2 ワークショップ実施の様子

プロトタイプシステムおよび運営技術の評価のために、筆者らは91名の学生が16チームに分かれて参加した都市デザインWSを開催した（図2）。都市デザインWSの実施過程やその成果、参加者へのアンケート結果から、多人数が参加したにもかかわらず、提案した運営技術によりWSを円滑に実施することができた。

(Proceedings of the Tenth Conference on Computer-Aided Architectural Design Research in Asia
(New Delhi), Volume 1, pp.142-153, 2005.4)